事業所名：グループホーム妙水苑

作成日：　平成　30年　10月　10日

2　目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	現在、身体拘束実施者1名。身体拘束解除に向け取り組んでいる。段階的に解除に向かっているが、今後も身体拘束が常態化しないように努め、継続し第3者の意見、助言を取り入れていく必要がある。	身体拘束廃止への積極的な取り組みを行う。第3者等への報告を継続的に行うことで、身体拘束が常態化しないよう努め職員への指導、教育を行っていく。	①運営推進会議を活用し、継続的に身体拘束廃止への取り組み状況を報告し、助言を受ける。 ②身体拘束が常態化しないよう、他系列グループホーム間で情報交換を行っていく。 ③定期勉強会の実施。（事業所内だけでなく、関連部署間での勉強会の実施。）	6か月
2	3	陽だまりカフェ（認知症カフェ）は3年目を迎える。参加者が徐々に増え、地域の高齢者世帯が増えており、今後さらに地域住民への認知症の予防、理解等の啓発が必要である。	地域住民への認知症カフェの周知、PRを行っていく。認知症がすべての人にとって身近であり、理解を得ることで、相互の関係を作っていく。	①集客に向けた企画の推進。（参加者への要望調査） ②地域への広範囲のポスティングの実施、PR。 ③他関連事業所と連携。高齢者支援センターとの連携強化、情報交換。	3か月
3	33	看取り要望が増えている。看取り実施にあたり、今後も家族、職員への十分な理解と、職員の精神的負担への配慮が課題となってる。	本人、ご家族の要望に沿った満足度の高い看取りの実施。看取りを通じた職員の教育、技術向上。	①看取りに関する書類等の整備、見直し。 ②看取り実施前後の十分なカンファレンスの実施。 ③看取り後の職員間での振り返りの実施。（メンタルケア） ④医療機関、訪問看護との協力体制の定期確認。 ⑤定期勉強会の開催。	6か月
4	49	ADLの重度化により外出が困難となっている利用者様が増加傾向にある。	身体状況や健康状態に応じたイベントの企画。地域資源を活用したイベントの実施。	①適切な身体状況のアセスメントを実施。（座位保持能力等の把握、企画担当者との協議） ②近隣の公園や学校行事等の有効活用。バリアフリー施設等の情報収集。 ③付き添いボランティアの有効活用。	6か月
5					か月

注）項目の欄については、自己評価項目の№を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。